

岩手県金融経済概況（平成 26 年 12 月）

1. 概 況

県内経済は、消費税率引き上げの影響による反動が徐々に和らいでいる中、緩やかな回復を続けている。

最終需要の動きをみると、公共投資は、高水準で推移している。設備投資は、増加している。住宅投資は、前年割れとなっている。個人消費は、総じて底堅く推移している。なお、これらの分野では、駆け込み需要の反動が徐々に和らいできている。

生産は、下げ止まりに向けた動きもみられる。

雇用・所得環境は、改善している。

2. 最終需要

(1) 建設投資（公共投資、設備投資、住宅投資）

① 公共投資は、震災復旧復興工事を主体に、高水準で推移している。

—— 平成 26 年 12 月の公共工事請負金額は、高水準の前年（平成 25 年 12 月の対前年同月比：+80.9%）を+20.1%上回った。

—— 平成 26 年 12 月の大口工事では、沿岸地域の道路関連工事や災害公営住宅建設工事などが、目立っている。

—— この間、平成 26 年の年間公共工事請負金額は、高水準の前年（平成 25 年の対前年比：+23.7%）対比で+22.6%増加した。

② 民間設備投資（平成 26 年度計画；短観ベース）は、製造業、非製造業ともに、新製品対応投資、省力化投資などに前向きな先が多くみられていることから、前年を上回る計画となっている。

③ 住宅投資（新設住宅着工戸数）は、前年割れとなっている。

—— 新設住宅着工戸数（平成 26 年 11 月）を利用関係別にみると、持家は、4 月以降 8 ヶ月連続して前年割れとなっているものの、駆け込み需要の反動

は徐々に和らいできている。貸家は、10月に災害公営住宅の着工増から5ヵ月振りに前年比プラスとなったあと、11月は再びマイナスに転じている。

新設住宅着工戸数 前年比 (%) (資料：国土交通省)

		持家	貸家	分譲	その他共計
平成26年	1～3月	+18.8	+15.2	+87.3	+27.8
	4～6月	△12.2	+46.4	+43.6	+9.1
	7～9月	△14.2	△25.7	+25.8	△17.1
平成26年	7月	△11.7	△39.4	△24.1	△24.0
	8月	△10.0	△20.1	+95.0	△12.8
	9月	△20.3	△18.4	+26.5	△15.3
	10月	△15.1	+38.5	△30.8	+11.5
	11月	△30.7	△26.0	+3.1	△27.5

④ 県内官民建設工事全体の出来高は、高水準で推移している。

—— 平成26年11月の建設総合統計（岩手県出来高ベース）は、1,226億円（前年比+34.9%）であった（平成24年2月以来34ヵ月連続で前年比プラス）。

(2) 個人消費

個人消費は、耐久消費財で駆け込み需要の反動が徐々に和らいできており、総じて底堅く推移している。

① 新車登録・届出台数（平成26年12月）は、普通乗用車、小型乗用車が消費税率引き上げの影響による反動を主因に前年割れを続ける一方、軽四輪が前年比大幅プラスとなったことから、全体では3ヵ月振りに前年を上回った。

<新車登録・届出台数（登録車+軽） 前年比 (%) (資料：東北運輸局) >

		普通乗用車	小型乗用車	軽四輪	その他共計
平成26年	1～3月	+35.8	+2.6	+35.3	+21.0
	4～6月	△10.7	△3.7	+5.2	△3.1
	7～9月	+3.3	△2.4	△8.8	△4.0
	10～12月	△17.8	△19.2	+11.5	△5.7
平成26年	9月	+12.6	△9.8	+0.7	+2.4
	10月	△7.8	△20.9	+0.5	△10.6
	11月	△18.0	△20.7	△0.7	△10.5
	12月	△27.9	△14.6	+35.9	+5.4

② 百貨店売上高（平成 26 年 12 月）は、休日日数要因（前年 12 月に比べて土日祝日が 1 日少ない）もあって、多くの品目でマイナスとなった（前年比△5.9%）。

＜百貨店売上高 前年比（%）（資料：日本銀行盛岡事務所）＞

	衣料品	飲・食料品	雑貨	その他共計
平成 26 年 1～3 月	+ 2.1	+ 1.3	+ 0.3	+ 2.6
4～6 月	△ 9.7	△ 4.0	△12.5	△ 7.9
7～9 月	△ 4.4	△ 1.0	+ 1.1	△ 1.9
10～12 月	△ 5.5	△ 1.3	△ 0.8	△ 3.0
平成 26 年 9 月	△ 1.5	△ 1.0	+ 2.3	△ 0.2
10 月	△ 0.9	+ 6.7	△ 0.4	+ 0.2
11 月	△ 5.6	△ 3.6	+ 3.6	△ 2.6
12 月	△10.1	△ 3.9	△ 5.0	△ 5.9

② スーパー売上高（全店舗ベース）は、増加基調を維持している（スーパー売上高 全店舗ベース前年比（%）＜資料：経済産業省＞ 平成 26 年 10 月+3.0% →11 月+5.7% →12 月（p）+2.1%）。

3. 生産動向

生産（鉱工業生産）については、下げ止まりに向けた動きもみられる。

—— 鉱工業生産指数（季節調整済計数）をみると、平成 26 年 8 月に 4 ヶ月振りに前月比マイナスとなったあと、11 月まで 3 ヶ月連続で増加した（鉱工業生産指数 季調済前月比（%）＜資料：岩手県＞ 平成 26 年 8 月△4.1% → 9 月+2.6% → 10 月+1.0% → 11 月（p）+0.9%）。

—— 品目別では、足許、輸送用機械、窯業・土石製品などが増加している。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境は、改善している。

有効求人倍率（季節調整値）は、19 ヶ月連続で 1.00 倍以上を記録している（平成 26 年 11 月 1.12 倍）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査）は、6 ヶ月連続で直近ピークを更新している（平成 26 年 11 月 358,967 人）。

平成 26 年 11 月の名目賃金指数は、「特別に支払われた給与」が前年対比で減少したことから、前年比△1.9%のマイナスとなった。

平成 26 年 11 月の雇用者所得（県内合計値）は、名目賃金指数の前年割れを主因に 3 ヶ月振りの前年割れ（前年比△1.0%）となった。

5. 企業倒産

企業倒産（平成 26 年 12 月）は、1 件、0.9 億円となり、件数、金額とも前年を下回った。

—— 平成 26 年の年間企業倒産は、44 件、154 億円となり、件数、金額とも前年（件数 41 件、金額 128 億円）を上回った。

6. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金、貸出は、前年を上回って推移している。貸出約定平均金利は、低下地合いを辿っている。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>